

✕ 同窓会からのあいさつ

慶應義塾大学整形外科 同窓会長 堀内 行雄 (52回)



2011年11月に慶大整形外科同窓会長に就任して12年になりました。2019年暮れに中国武漢で始まり全世界に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）はようやく本年5月8日に5類感染症になりました。

昨年、コロナ禍のため開催が危ぶまれた教室開講100周年記念講演会と祝賀会は、2022年6月11日（土）にThe Okura Tokyoで約300名の関係者に参列していただき、厳かに執り行われました。会食なしではありましたが、一堂にお集まりいただき、ほぼ企画通りに終えることが出来ました。今回の開講100周年記念行事に関係していただいたすべての方々のご協力

ご援助の賜物と感謝しています。

同窓会総会は、昨年、3年ぶりに一堂に会して対面で開催することが出来ましたが、残念ながらCOVID-19が沈静せず、懇親会の開催は断念しました。今年と同窓会総会も対面で行い、懇親会は4年ぶりに開催できることを本当にうれしく思います。同窓会の目的とする親睦を深めるには、対面の飲食を伴う会合が一番大切であると痛感しています。皆様のご理解ご協力に感謝申し上げます。

このニュースレターは、同窓会誌「ふるさと」を発刊しない年にその代わりに発行しているもので、2017年11月に第1号を発行し今回で4号目になります。これにより、同窓会誌「ふるさと」を発刊しない年でも1年間の同窓会や教室の現状、新専攻医（準会員）の紹介、秘書のメンバー変更などについて、知ることが出来ます。今年も、このニュースレターとホームページ（HP）でご確認ください。今回のこのニュースレターも、松村 昇先生（81回）が中心に作成してくれました。ありがとうございます。

同窓会や教室の情報は、HP「ふるさと」を見ていただくと比較的速やかに多くの情報が得られます。HPは2015年2月に開設していただいてから8年が経過しました。2020年にはサーバーを移転し、セキュリティ向上をはかりアクセススピードもかなり速くなりました。こちらは井口 傑先生（49回）に当初からお願いして、多くのご尽力をいただいています。ご厚意に甘えるばかりで申し訳なく思っています。ありがとうございます。このHPを見ていただければ、同窓会のこと、同窓会員のこと、その時点の最新の教室情報なども教室協議会報告などで知ることが出来ます。是非お役立てください。

さて、この紙面をお借りして、新制度であるシルバー会員制度について説明させていただきます。2021年の同窓会総会で、「80歳以上の会員の年会費を免除する」ことを目的としたシルバー会員制度の承認をしていただきました。実際に施行するにあたり、80歳で分けるのは煩雑なので卒業回数で分けることにしました。

シルバー会員制度は、今年(2023年)は46回(同窓会ナンバーの311~323)を含めてそれ以上の先生方に適用されます。来年(2024年)は47回、再来年(2025年)は48回と年々、シルバー会員数を増やしていきます。しかしそれ以前に支払していただいていた年会費の履歴は残り、その分のみは支払終了まで、毎年、同額の請求させていただきます。どうぞご理解ご協力をお願いします。

慶大整形外科の二人の教授は教授就任後8年を過ぎました。二人教授体制は順調に推移していますが、教室主任教授は2021年10月に松本守雄教授から中村雅也教授に引き継がれました。相変わらず、お二人とも期待通りの活躍を続けていただいております、同窓会としても誇らしい限りです。

中村雅也教授は、今年の教室開講100周年記念式典では中村雅也教授らしい素晴らしい舵取りをされ、制限の多かったこの式典を見事に終えられました。ご自身の研究や教室員の研究指導など多忙の中、慶應義塾大学副医学部長も継続されています。そのほかにも多くの学会などの学外の学術関連の仕事もされていて多忙を極めています。

松本守雄教授は、2021年5月に日整会理事長の任期満了後、2021年9月1日より慶應義塾大学病院病院長に就任されご活躍中です。今年10月より第2期目に入りました。コロナ禍の中、大変な舵取りをされ、見事、乗り切ってこられました。更に、来年には2024年5月に第97回日整会学術総会の会長をされます。松本教授も相変わらず、多忙を極めています。

両教授のますますのご活躍をお祈り申し上げるとともに同窓会として可能な限り支援して参ります。

同窓会役員は、同窓会をさらに盛り上げるため17人で頑張っています。慶大整形外科が素晴らしい教室・同窓会であり続けるためには、両教授ならびに教室員を含む同窓会員全員が、臨床・研究・教育など多方面で「慶大整形外科の同窓であるという看板を背負って誇りをもって頑張る」ことが基本であると思っています。同窓会長と致しましては、さらに皆様から同窓会の活性化に向けて活発なご提案やご助言をいただきたいと思っています。今後とも同窓会会員が結集して両教授を盛り上げ支援し、同窓会が更なる高みを目指せるように皆様からのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

教室からのあいさつ

慶應義塾大学整形外科 教授・教室主任 **中村 雅也** (66回)



早いもので2015年に戸山名誉教授からバトンを受け取り9年目を迎えました。昨年はふるさとの発刊の年でしたので、それ以降の教室内外の出来事を振り返ってみたいと思います。

教室の体制と活動

2021年に松本教授から教室主任を交代して2年が経ちました。残すところ3年半となりますが、この間に私が最も注力すべきことは少しでもいい形で、次世代にバトンを渡すことだと考えています。

この2年間、二木康夫先生(72回)、渡辺航太先生(76回)の両准教授、中山ロバート医局長(80回)、名越慈人副医局長(81回)の体制で教室を運営してきましたが、人事では2023年10月に大きな変化が訪れます。長年、教室に貢献してくれた二木准教授が10月より藤田医科大学整形外科に臨床教授として赴任します。羽田空港に近接する羽田イノベーションシティにできた藤田医科大学東京において、診療と研究に携わる予定です。多摩川の対岸にある慶應義塾大学殿町キャンパスとの連携が今後益々強固なものになると確信しております。一方、二木先生の後任人事である教室の准教授の選考も現在進行中であり、10月以降は新たな体制で臨みたいと思います。

これまで教室運営は、中山医局長と二人三脚で行って参りましたが、10月より小林秀先生(80回)を新医局長に迎え、教室を運営していく予定です。中山先生、本当に2年間に難うございました。教室内外の様々な案件に対して的確に、そして迅速に対応して頂き、心より感謝しております。副医局長は引き続き名越先生にお願いしたいと思います。そのほかの教室人事では、2023年10月より小林秀先生と鈴木拓先生(83回)が専任講師に、また、藤江厚廣先生(85回)、尾崎正大先生(86回)、鈴木悟士先生(86回)の3名が専任講師(学部内)に就任します。各先生には心よりお祝い申し上げるとともに、新しい立場での益々のご活躍を期待しております。さらに、この数年で次世代を担う新しい人材を登用していきたいと思ひます。

昨年度の教室の診療、研究、教育の実績の今後

各診療班の体制は、脊椎脊髄班：渡辺航太先生、上肢班：岩本卓士先生(79回)、下肢班：二木康夫先生、腫瘍班：中山ロバート先生をチーフとして日々の診療にあたり、昨年度は2386件の手術を実施いたしました。大学病院としては全国屈指の手術数を誇り、コロナ禍からの病院の収益改善にも大きく貢献をしています。また、2024年に開始される働き方改革に向けて、様々な実態調査を重ね、整形外科学教室では職位や臨床班に関わらず、一律A水準で申請することにいたしました。今後、一人当たりの残務を軽減するためにも人材の確保が今後益々大きな課題になってきます。その意味においても、

専攻医後期研修医プログラムの選択者数を確保することは教室の今後の未来を左右する大きな案件です。東京都はシーリングがあるため、都内の大学間で協議を重ね、2024年度の慶大整形のプログラム選択者は、通常枠12名、連携枠3名、II型7名の計22名となりました。これも関連病院の皆様のご協力の賜物です。この場を借りて御礼申し上げます。また、教室のスタッフの皆さん、特に勧誘活動の先頭に立ってくれた鈴木拓先生に感謝したいと思います。

研究面では、2022年度は臨床と基礎併せて英文論文156編を世に出すことができました。慶應義塾大学三四会・北島賞を渡辺航太先生、奨励賞を河合桃太郎先生（93回）がダブル受賞を、また日整会奨励賞（基礎部門）を河合先生が受賞しました。教室として名誉なことであり嬉しい限りです。

研究体制に関しては、2年前のリサーチパーク6N6のバイオメカ研究室に次いで、4N8の整形外科研究室・分室も今年度で撤収する予定です。それに向けて、臨床研究棟2階203の整形外科研究室の全面改修工事を計画しています。この背景は、今後益々企業との寄付研究講座の設置が困難となる可能性が高く、限られた人的、資金的なリソースを最適化して、自前の研究室をより効率的に運用していくことを目的としています。次世代を担う教室員が気持ちよく継続的に研究できる環境を確り整えていきたいと思えます。一方、リサーチパーク5S7 脊髄再生研究室は複数のAMED大型研究費に採択されましたので、当面は現行の体制で研究を継続していく方針です。

教育面では、教室のスタッフやチーフの先生方、特に教育担当の鳥居暁子先生（87回）の努力もあり、医学部5年のポリクリは非常に好評です。その結果、6年生で整形外科を選択してくれる学生がこのところ増加しており、今年は選択型クリニカルクラークシップ（1か月）7名、選択型実習（2週間）6名で計13名の学生が整形外科を選択してくれました。将来の整形外科志望につながるので引き続き確り取り組んでいきたいと思えます。

関連大学の状況

関連大学では、国際医療福祉大学整形外科で大きな人事がありました。初代教授で赴任した石井賢先生（72回）が諸事情により昨年12月末で教授を退任し、本年4月より八木満先生（78回）が第2代教授に就任されました。教室としては、これまでの一連の経緯を考えると複雑な思いでは御座いますが、雨降って地固まると申します。八木先生を新たな教授として迎えた国際医療福祉大学整形外科教室が、今後益々発展することを心から祈念しております。慶大整形外科としても確り支援していきたいと思えます。

防衛医科大学校整形外科の千葉一裕教授（62回）が来年3月末で退官されます。これを受けて教授選考委員会が立ち上がり、次期教授選考が本格化しております。慶大整形としてもしっかりと対応して参りたいと思えます。

関連学会について

日本整形外科学会の代議員として、教室関連では池上博泰先生（64回）、岩部昌平先生（67回）、須佐美知郎先生（77回）、須田康文先生（65回）、千葉一裕先生（62回）、中村雅也（66回）、藤田順之先生（79回）、船尾陽生先生（80回）、細金直文先生（76回）、堀内圭輔先生（73回）、松本守雄先生（65回）、宮本健史先生（73回）、森井健司先生（70回）、吉田英彰先生（68回）、渡辺航太先生（76回）、渡辺雅彦先生（66回）（五十音順）の計16名を輩出しており、千葉一裕先生が理事として活躍されています。嬉しい知らせとして、今年の総会で日本整形外科学会・功労賞を大谷俊郎先生（59回）と柳本繁先生（59回）が受賞されました。本当におめでとうございました。

2024年には松本教授を大会長として第97回日本整形外科学会学術総会が福岡で開催されます。慶大整形にとって名誉なことであり、教室、同窓会をあげて確りサポートして参りたいと思います。これまでの同窓会の先生方のご支援に感謝申し上げますとともに、来年の総会を成功裡に終えるために引き続きのお力添えを何卒よろしくお願い申し上げます。

私個人としては、昨年より日本脊髄障害医学会の理事長を、一昨年より日本脊椎脊髄病学会の副理事長、日本末梢神経学会の理事を拝命しており、いずれの学会もその成り立ちから慶大整形とは深い縁がある学会です。各学会の発展に尽力するとともに、確り次の世代にバトンを繋げられるよう頑張っ参りたいと思います。

医学部・病院・塾の現状と今後

医学部執行部に関しては、天谷前医学部長に医学部長補佐として4年間、金井現医学部長に副医学部長（産学連携・イノベーション担当）として2年間勤めて参りましたが、2023年10月からの金井医学部長新体制においても副医学部長として参画することになりました。義塾が進める国際卓越研究大学に向けて、共創の場形成支援プログラム（COI-next）、地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージという大型プロジェクトにも深く関わっております。慶大整形、慶應医学、さらには慶應義塾の発展に微力ながら尽力して参りたいと思います。教室員ならびに同窓会の先生方のご支援をよろしくお願い致します。

病院執行部も松本病院長を中心にコロナ禍の大変な舵取りをこの2年間見事に取られてきました。その成果もあって、この10月からの新体制においても松本病院長の続投が決まりました。教室としても最大限サポートしていきたいと思ひます。

おわりに

冒頭に申し上げた通り、在任期間は残り4年弱とはなりましたが、慶大整形が持続可能でさらに発展していくためにも、今後数年間に教室内外の人事を含めた重要な取り組みを確り進めていきたいと思ひます。教室員、同窓会の皆様におかれましてはご理解とご協力の程何卒よろしくお願い致します。

慶應義塾大学整形外科 教授 **松本 守雄** (65回)



同窓会の先生方には平素教室への温かいご支援をいただき感謝を申し上げます。私自身の近況および2024年に会長を務めます第97回日本整形外科学会学術総会の準備状況などにつきましてご報告いたします。

まず自身の近況ですが、2021年9月をもって教室主任の立場を降りて教室の運営からは退き、週一日の外来を除いては慶應義塾大学病院長として病院運営に取り組む日々を続けております。2年の病院長任期を務めた後、病院長適任者選考委員会の選考を経て塾長より再任いただき、本年10月より2期目の任務（任期は2025年9月30日まで）を行っています。慶應病院は2021年5月に多くの皆様のご支援を得て新病院がグランドオープンし、新型コロナへの対応を行いながらも通常診療を両立することができております。患者の皆様からも新病院に対しては概ね好評をいただいております。患者数もほぼコロナ前までに戻ってきております。2023年11月6日からは麻布台地区に完成した森ビル麻布台ヒルズに予防医療センターを拡張移転して、新しい予防医療を展開しております。

ちなみに整形外科は病院の中ではあらゆる診療科の中でトップクラスの診療実績を上げており、病院運営に大きく貢献してくれています。また、DPCデータによる筋骨格系の手術数では都内の大学病院の中で他を引き離してトップの実績を上げており、「臨床の慶應」の面目躍如というところだと思います。

学外では整形災害外科学研究助成財団および運動器の健康・日本協会の2つの整形外科関連の公益財団法人の理事長を務めております。整形災害外科学研究助成財団は故天児民和九州大学名誉教授を初代理事長として1983年に設立され、毎年全国の若手整形外科医師への研究助成を行っており、教室の若手も複数受賞しております。同窓の先生方にも会員として財団の運営にご支援をいただいておりますこの場をお借りして感謝を申し上げます。

運動器の健康・日本協会は2000年「骨と関節の10年」日本委員会として故黒川高秀東京大学名誉教授を初代委員長として発足し、2016年に現在の公益財団法人となり、運動器の健康・日本賞」顕彰事業、季刊誌「Moving」発刊などの広報事業、成長期のスポーツ外傷予防啓発、脆弱性骨折予防・運動器外傷の救急医療、運動器疼痛対策などのさまざまな運動器健康推進事業を行っています。

次に第97回日整会総会の準備状況についてです。会期は2024年5月23日(木)～26日(日)の4日間、会場は福岡市の国際会議場、マリンメッセにおいて開催させていただきます。テーマは「未来を創る ー人生100年時代の整形外科ー」とさせていただきます。人生100年時代が現実のものとなるなか、全世代の国民の運動器の健康を担い、明るい未来を創るために整形外科の果たすべき役割はますます重要になってきています。医療には近年急速なパラダイムシフトが生じており、AI、ロボット、遠隔医療、ビッグデータ利活用などの新規医療技術をいかに適切に整形外科診療に導入していくか、また、専門医制度、医師の働き方改革、男女共同参画、医療安全・感染対策、ロコモ対策などの喫緊の医療政策的課題への対応をどのようにしていくか、などについてしっかりと議論できる機会にしたいと思っております。学術総会は日整会最大の事業であり、創立100年を前に日整会が目指すところを明らかにするため理事会にご提案いただいたシンポジウム、講演を会期の第3、4日目に企画いたします。SDGsにもコミットした運営を心がけ、gender equalityの観点からできるかぎり多くの女性会員の方に座長をお願いする予定です。基調講演を元慶應義塾長で現日本赤十字社社長の清家 篤先生、記念講演を橋本聖子参議院議員、特別講演を村井 純慶應義塾大名誉教授・内閣官房参与、山崎正志筑波大教授・元日整会理事長、忽那賢志大阪大感染制御医学講座教授、蟹江憲史慶應義塾大学教授にお願いしております。全員懇親会、スポーツイベント（野球、サッカー）、晩餐会なども予定しております。

私が日整会理事長を務めていた際に学術集会のあり方ワーキンググループで定めた学術総会運営方針に従い、現地を主体としオンデマンド配信を併用したハイブリッド形式で行い、会場数を12会場に絞った上で講演・シンポジウム主体のプログラムを組む予定です。一般口演演題の採用は限定的とせざるを得ず、狭き門となる想定です。まだウィズコロナの状況での開催ですので、華美は避けてできるだけ簡素な、しかし心のこもった運営を心がけます。

整形外科の学術的な発展に資するとともに、会員相互そして国内外からの来賓との親睦を深め、若い先生方には整形外科医としての未来を提示できるような学術総会となるようスタッフとともに鋭意準備に取り組みたいと思っております。同窓の皆様のご支援をお願いするとともに、奮ってのご参加を心よりお待ちしております。





2021年10月、前任の岩本卓士先生（79回）から引き継ぎ、慶應義塾大学医学部整形外科学教室の教室幹事を2年間務めさせて頂きました。慶大整形の大きさに圧倒され、その組織運営の中核に携わるといふ重責を担い、心身ともに押し潰されるような思いの毎日でしたが、中村教授からの適切なご指示に加えて、教室幹事経験のある二木康夫先生（72回）、渡辺航太先生（76回）、岩本先生が各診療班のチーフとして相談に乗ってくださり、実務では副医局長の名越慈人先生（81回）、専攻医担当の鈴木拓先生（83回）をはじめとする慶大医局員に支えられ、さらには関連病院の先生方からも温かい

お言葉とご配慮を頂き、何とか2年間の任務を終えることができました。私は、小さな臨床班である腫瘍班に所属する一教室員ですので、教室幹事を拝命するまでお名前は存じ上げていても面識のない先生方も多かったのですが、この2年間で教室内外の多くの先生方と直接お話しさせていただく機会が持てたのも貴重な経験となりました。また、やる気に満ちた若い先生方とお話しする機会が多かったことも大変刺激になりました。教室幹事という責任のある立場を頂いたことは非常に光栄で幸運なことで、この2年間に教室運営にご尽力いただいた先生方、私をご指導いただき、このような貴重な機会を与えてくださった諸先輩方に改めて心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

本稿を書いている2023年10月に、新型コロナウイルスのmRNAワクチンの開発で大きな貢献をした、ペンシルベニア大学のカタリン・カリコ氏とドリユー・ワイスマン氏のノーベル生理学・医学賞受賞が発表されました。私が教室幹事の職を拝命した2021年10月は、彼らがわずか1年で開発したワクチンの2回の接種が終わり、いよいよ「ポストコロナ」に向けて社会が歩み始めるタイミングでした。しかし、その後も新しい変異株の発生と感染拡大の波が（不思議と）断続的に定期的に押し寄せ、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に分類された2023年5月以後の現時点でも、我々医療者は感染拡大に配慮しながらの生活を日々強いられます。私が教室幹事を拝命した2年間は「Withコロナ」の社会の中でいかに教室行事を再開し、いかに教室機能を維持するかが最も大きな課題でした。今後も感染対策は続きますが、コロナ前のような教室員の気兼ねのない、和気藹々とした交流が再開できることを期待しています。

その他、日本専門医機構による新専門医制度の適性運用、2024年4月に運用開始となる医師の働き方改革に向けた準備、多様性に配慮し適材適所を目指した人事など、岩本先生から頂いた継続的な課題は確りと小林秀先生（80回）に引き継がせていただきます。教室の財産は教室員しかありません。何よりも、教室に所属する若い先生方が、関連病院で安心して、誇りを持って、患者さんにより良い運動器診療を提供するべく活躍することが慶應義塾大学病院整形外科学教室の発展につながります。微力ではございますが、今後とも教室発展のお役に立てればと存じます。同窓の先生方におかれましては、引き続きご指導、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

慶應義塾大学整形外科 教室幹事 **小林 秀 (80回)**



本年10月より、中山ロバート先生（80回）の後任として慶應義塾大学整形外科教室幹事を拝命しました80回生の小林秀と申します。この場をお借りして自己紹介と着任の挨拶をさせていただきます。

私は平成13年に慶應義塾大学医学部を卒業して直ちに慶應義塾大学整形外科に入局致しました。その後、駒沢病院、厚生連魚沼病院、慶應義塾大学病院、済生会宇都宮病院で勤務致しました。平成18年から2年間、東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センターの桃原茂樹前教授（63回）にご指導いただき、AhR (Aryl hydrocarbon receptor) の関節リウマチの病態への関与、STAT4遺伝子変異のSLEへの関与などの研究に従事し、学位を取得させていただきました。その後平成20年から2年間半、埼玉社会保険病院（現JCHOさいたまメディカルセンター）で児玉隆夫先生（64回）に膝関節手術のご指導をいただき、平成23年から稲城市立病院に勤務し、平成28年に慶應義塾大学整形外科に帰室させていただきました。帰室後は膝関節の診療、研究、学生教育に従事し、教室内の役職としては外来医長、保険医長、病棟医長を、また令和元年から2年間半、副医局長を務めさせていただきました。この度、教室幹事という大役を拝命いたしました。当教室の運営が滞りなく行われるよう全力で努めてまいります。

近年、COVID-19による影響が社会生活に大きな変化をもたらしました。リモートワークが普及し、当教室においてもカンファレンスやミーティングがWEBを用いて行われるようになり、便利になった面も数多くあるかと思えます。一方で医師の働き方改革が本格的に導入されることとなり、若い医師が研修にあたる時間が以前と比べ制限されることが懸念されます。こういった背景を踏まえ、今後はいかに若手医師の研修を限られた時間で有効におこなっていくことが重要になるかと考えております。専攻医プログラムを作成・決定する上でもこの点に留意して魅力ある研修体制の構築に向けて取り組んでまいりたいと思えます。大学および関連病院におかれましても引き続きの手厚いご指導をいただければ幸いです。

昨年は教室100周年記念がございました。歴史ある当教室の歩みをあらためて拝見し、今回当教室の幹事という非常に責任の重い任務が自分に務まるか不安ではありますが、副医局長の名越慈人先生（81回）と共に協力して努力してまいりますので、引き続きのご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

✕ 研修プログラム参加者の紹介



えり ゆうや
江里 悠哉

生年月日 1995年9月8日
出身大学 岡山大学

ておりました。小さい頃から整形外科にはお世話になることが多かったのですが、スキーでの怪我が科を決める大きなきっかけとなりました。慶應整形の研究、臨床の両側面から患者さんへアプローチする理念にとっても惹かれ、専攻医研修を希望致しました。

現代医療に少しでも貢献できる整形外科医となれるよう、これからも努力を重ねていく所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程何卒宜しくお願い致します。

令和5年度新専攻医の江里悠哉と申します。出身は愛媛県松山市で、みかんを食べて育ちました。

中高は愛光学園、大学は岡山大学を卒業し、岡山の市中病院で初期研修を行いました。大学では競技スキー部に所属し



おおつか けいすけ
大塚 啓介

生年月日 1997年1月5日
出身大学 慶應義塾大学

間を過ごしました。大学卒業後は千葉県旭市にある国保旭中央病院にて電話の鳴り止まない日々の中、初期研修としてGeneralな臨床能力を鍛錬させていただきました。その後、患者さんの生活に直結する「動き」や「痛み」に対して介入ができる整形外科に憧れ、慶應整形外科へ入局させていただきました。

至らぬ点多々あるかと存じますが、誠心誠意精進して参りますのでビシバシご指導いただけますと幸いです。

大塚啓介と申します。生まれと育ちは神奈川県横浜市で、横浜市歌を歌うことができます。

中学から大学まではテニスに打ち込んでおまして、高校時代は蝮谷、大学時代は神宮テニスクラブという所で長い時



かげやま あきひろ
影山 瑛大

生年月日 1994年7月5日
出身大学 北里大学

研修を行いました。学生時代よりラグビー、アメリカンフットボール、野球に勤しみ、数えきれない程の怪我を負う中で自然と関わりの深い整形外科を志望するようになりました。

まだまだ未熟で先輩方にご迷惑をお掛けすることが多々ありますが、部活で鍛えた精神力と体力で精いっぱい努力しますので、今後ともご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

令和5年度新入局者の影山瑛大と申します。現在伊勢原協同病院で勤務しております。

出身大学は北里大学で、6年間の学生生活を経た後、立川共済病院と慶應義塾大学病院でそれぞれ1年間ずつ初期臨床



かわはらだ しんぺい

川原田 晋平

生年月日 1996年7月29日

出身大学 九州大学

属しておりました。生まれも育ちも福岡県ですが、心機一転、慶應義塾大学整形外科専攻医として、学ばせていただくことを決意しました。

現在は伊勢原協同病院にて数多くの症例に触れながら充実の日々を送らせていただいております。人のためになれるように日々精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。

2023年度新専攻医の川原田晋平と申します。

出身は福岡県福岡市で、中高は久留米大学附設高校に、大学は九州大学に進学し、初期研修は福岡赤十字病院で研修致しました。学生時代は硬式テニス部に所属



きくち はるか

菊池 春花

生年月日 1994年6月2日

出身大学 東京医科大学

泳・陸上競技等を幼少期から経験しました。大学時代はバスケットボール部に所属し、ポジションはセンターでした。大学卒業後は国際医療福祉大学三田病院で2年間初期研修を行い、一般的な外傷から慢性期疾患まで幅広い分野に触れさせていただく中で整形外科に強い興味を持ちました。

整形外科医としてはまだまだ未熟者ですが、運動機能の改善を通じて全年齢・性別の患者に貢献できることにやりがいを感じております。真摯に日々の研修に取り組んでいく所存ですので、今後とも熱い御指導・御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

はじめまして。私、令和5年度専攻医の菊池春花と申します。出身は東京都目黒区、高校は慶應義塾女子高校です。内部進学で経済学部には一度は進学しましたがその後浪人をし、東京医科大学へ入学しました。スポーツは、体操・乗馬・水



こじま ふみや

小島 史也

生年月日 1995年3月29日

出身大学 金沢大学

ていたこともあり、もともと整形外科医には興味がありました。初期臨床研修は慶應大学の関連である静岡赤十字病院で2年間研修を行いました。整形外科の研修で経験したバリエーション豊かな症例や手技により一層興味を持ち整形外科医を志望しました。現在も継続して静岡赤十字病院で勤務しています。

自分の技術を磨き一つでもできることを増やして日々の診療に生かしていきたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほど、よろしく申し上げます。

令和5年度新入局者の小島史也と申します。出身は千葉県で、出身大学は金沢大学です。

大学時代は実戦空手部に所属しており、競技の特性上、頻繁に怪我をしていました。怪我のたびに整形外科を受診し



さとう みのり

佐藤 みのり

生年月日 1995年11月28日

出身大学 埼玉医科大学

医師として成したいことが全て整形外科に詰まっている、と感じて整形外科プログラムの専攻を決めました。

患者さん一人一人のQOLを考え、真摯に向き合える医師になりたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

100回生の佐藤みのりです。埼玉医科大学を卒業し、国立病院機構埼玉病院で初期研修を修了しました。

もともと外科系に進みたいと考えておりましたが、初期研修で整形外科をローテーションさせて頂いた際、自分が今後



すずき まゆ

鈴木 黛

生年月日 1992年11月22日

出身大学 東邦大学

後、初期研修先の北里研究所病院での先生方の出会いを通じて整形外科医の魅力を知り、入局を決意いたしました。臨床範囲の広い整形外科の各分野で、実績および経験が豊富な先生方がいらっしゃる慶應整形で学ばせていただける環境に恵まれ、ありがたいことだと感じております。患者様のQOL改善のお手伝いができるよう精進して参りますので、何卒ご指導のほど宜しくお願いいたします。

2023年度、新専攻医の鈴木黛と申します。東邦大学出身で、部活動はバレーボール部に所属しておりました。

卒業後は、家族の留学先に帯同したため、テレワークでも働ける製薬会社に勤めPMDA対応を行っておりました。その



たなべ ようこ

田邊 蓉子

生年月日 1996年8月9日

出身大学 昭和大学

崎病院の2型プログラムに所属し、前半半年間は同病院で研修を行い、10月より大学病院で研修を行う予定でおります。外傷やスポーツだけでなく、慢性疾患や腫瘍など、幅広い分野に携わることができる整形外科に魅力を感じ、志望致しました。

全ての分野において、臨床、研究、教育が充実している当教室にて、日々精進して参りたいと思います。ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

2023年度新専攻医の田邊蓉子と申します。出身大学は昭和大学で、学生時代はバスケットボール部に所属しておりました。

初期臨床研修は、東京歯科大学市川総合病院で行いました。現在は川崎市立川



はら ゆうすけ

原 佑輔

生年月日 1988年5月30日

出身大学 帝京大学

令和5年度新入局者の原佑輔と申します。大学時代は水泳部とスキー部に所属し、6年間部活動に励んでおりました。スキー部では三度の前十字靭帯断裂を経験し、整形外科の先生方には大変お世話になりました。

大学卒業後は国立病院機構埼玉病院で初期研修を修了いたしました。研修において患者さんが元気に退院する姿をみて、患者さんのQOLに関わり、機能再建を行う整形外科という仕事にやりがいを感じ、整形外科への道へ進むことを決意しました。

未熟者ですが、精一杯頑張っていきたいと思います。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



ひろせ れい

廣瀬 怜

生年月日 1995年10月21日

出身大学 慶應義塾大学

令和5年度新入局者の廣瀬怜と申します。慶應義塾大学病院に現在勤務しております。大学時代はゴルフ部に所属しており日々練習に勤んでおりました。

私は大学1年生の時に交通事故に遭い、半年間慶應病院での入院を余儀なくされました。当時は切断の可能性もあると言われましたが、整形外科の先生方に真摯に寄り添ってもらい何とか乗り切ることができました。その経験を還元したいという想いから整形外科を選択させていただきました。

身を粉にして少しでもはやく1人前の整形外科医になれるよう努力して参ります。ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。



ふくだ まさひろ

福田 将大

生年月日 1993年5月12日

出身大学 札幌医科大学

皆様はじめまして。札幌医科大学出身、整形外科専攻医一年目の福田将大と申します。研修医は国立病院機構埼玉病院で修了しました。

部活は小学校から大学まで、野球をしていて、大学では、東医体準優勝、イン

カレベスト8となりました。学生の頃は、北海道中を旅行し、鮭を釣ったりと大自然を楽しんだり、すすきので同級生と朝まで飲み明かしたり、と誰よりも札幌医科大学を楽しんだと自負しております。

今は、国家公務員共済立川病院で、一人前の整形外科医になれるように日々精進しております。どうぞよろしくお願い致します。



ふじむら けんた

藤邑 健太

生年月日 1994年12月26日

出身大学 熊本大学

ングで整形外科にお世話になることが多く気づけば整形外科を志望しておりました。

実際に働いてみて、人のADLや生き方に大きく貢献できることを実感し、整形外科医になってよかったと思う日々です。日々、第一線で活躍されているスタッフの先生の刺激を受けながら同期と切磋琢磨しつつ頑張っています。

10月からは東京医療センターで多くの症例を担当、執刀し先輩方に少しでも近づけるよう頑張っていく所存でございます。整形外科医としてまだまだ未熟者ですが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

令和5年新入局者の藤邑健太と申します。東京医療センターで初期研修を行い、東京医療センター基幹型で現在慶應大学病院に勤務しております。出身大学は熊本大学で部活はバスケットボール部に所属しておりました。部活やトレーニング



ふもと まさと

麓 政人

生年月日 1996年9月17日

出身大学 慶應義塾大学

日々を送っておりました。初期研修の整形外科のローテーションにて患者さんの機能を回復させる多種多様な手術を目の当たりにし、自分も整形外科医として熱い生涯を送りたいと思い、慶應の専攻医プログラムに参加させていただきました。

若輩者ではございますが、慶應整形外科の一員として精いっぱい頑張りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

2023年度新専攻医の麓政人と申します。慶應志木高校、慶應義塾大学を卒業し、初期研修の二年間は栃木県の足利赤十字病院で過ごしました。

高校の頃から端艇部に所属し、大学では全学の端艇部にてボート競技漬けの



まつだ まさひろ

松田 昌大

生年月日 1996年3月17日

出身大学 慶應義塾大学

も引き続き大学病院で研修させていただきます。救急研修で災害医療センターの外傷班で研修を行った後、日野市立病院にて様々な外傷や慢性疾患の診療を経験させて頂き、整形外科の道へ進むことを決意いたしました。

整形外科は幅広く、まだ経験していないことも多いため、一つずつ吸収していき精進して参りたいと思います。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2023年度新専攻医の松田昌大と申します。出身大学は慶應義塾大学で学生時代はサッカー部に所属しておりました。

卒業後は日野市立病院で2年間の初期臨床研修を行いました。今年4月より慶應義塾大学病院で勤務させて頂き、後半



まつもと こうき

松本 晃樹

生年月日 1994年7月16日

出身大学 大阪医科大学

令和5年度新入局者の松本晃樹と申します。出身は広島の向島で幼少期は釣りをよくしておりました。

大学時代は大阪で過ごし、部活動はハンドボール部でよく怪我に悩まされてい

ました。コーヒーが趣味でコーヒーの大会に出場したりしておりました。

研修は東京都済生会中央病院で経験を積み、患者様のQOLをあげることの素晴らしさを身に沁みて感じ、整形外科医を志望しました。ガッツが持ち味です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



まるも まさひろ

丸茂 正展

生年月日 1994年1月1日

出身大学 東海大学

令和5年度新入局者の丸茂正展と申します。出身は東海大学で、初期臨床研修は伊勢原協同病院で2年間研修いたしました。半年間慶應義塾大学病院で勤務させていただいた後、現在は公立福生病院に勤務しております。

学生時代は中高大と野球部に所属し野球漬けの日々を過ごしました。その影響もあり学生時代より運動器の領域や外傷などに自然と興味を持ち整形外科医を志望いたしました。

まだまだ未熟者な私ですが、野球部時代に培った継続力で日々精進しますので今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



みやざき たいが

宮崎 大河

生年月日 1993年10月23日

出身大学 順天堂大学

令和5年度新入局者の宮崎大河と申します。出身大学は順天堂大学でラグビー部とアカペラ部に所属しておりました。

初期研修は出身地の仙台市にあるJCHO仙台病院で2年間研修をいたしました。

見学させて頂いたときの先生方のお人柄に惚れて慶應整形外科を選ばせて頂きました。慶應整形外科で働きはじめて半年程になりますが、皆様に優しく丁寧に指導して頂いてとても楽しい毎日を過ごしております。

まだまだ未熟者ですが、知識や実力をつけて、良い整形外科医になれるよう精一杯頑張りますので今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



やまざき れい

山崎 玲

生年月日 1995年12月13日

出身大学 北里大学

令和5年度新入局者の山崎玲と申します。大学時代はバドミントン部に所属しておりました。

静岡赤十字病院で1年間、慶應義塾大学病院で1年間初期研修をさせていただいていた中で、ADLの改善に直接的に寄

与できる整形外科に、大変魅力を感じて整形外科医の道を志しました。

4月から済生会横浜市東部病院で勤務し、症例を経験する度自分の無力さを痛感する日々ですが、先生方の医療への熱意に触れ、温かな教育を賜り、少しずつ成長しているのを実感しております。今後とも御指導御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



やまもと しょうた

山本 将大

生年月日 1996年1月10日

出身大学 旭川医科大学

令和5年度入局者の山本将大と申します。奈良県出身で、初期研修を大阪の高槻病院で行いました。初期研修の際にお世話になった先生から慶應義塾大学整形外科医局の雰囲気の良い、臨床、研究ともに日本トップレベルであることを教え

ていただきこの度プログラム選択させていただきました。現在、慶應義塾大学病院で学んでおりますが、非常に充実した日々を過ごしております。

大学時代はラグビー部に所属しひたむきにスポーツに取り組んでおりましたが、今後は整形外科医として患者様のためにより良い医療を提供できるよう邁進していく所存です。ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



わたなべ ゆうた

渡辺 佑太

生年月日 1996年3月25日

出身大学 福島県立医科大学

令和5年度新入局者の渡辺佑太と申します。慶應義塾大学病院に現在勤務しております。私は福島県立医科大学を卒業した後、初期研修を東京都済生会中央病院で行っておりました。

整形外科の選択期間は1カ月のみであ

りわずかな期間でしたが、手術をはじめ貴重な研修をさせて頂き慶應の医局の先生方のもとでこれからも学ばせて頂きたいと思い入局しました。

まだまだ未熟ではありますが、一つ一つの症例を大事にし、一人でも多くの患者さんのQOLを上げることが出来る医師になれるように日々精進して参りたいと思います。